令和４年度　「福祉就労から企業就労へ」
庁内実習の報告会と講演「縁と思いの中で働く」　報告

1　日時　令和４年12月８日（木）13時30分から15時30分
2　場所　乙訓総合庁舎　第２会議室
3　主催　乙訓圏域障がい者自立支援協議会　就労支援部会
　後援　乙訓障がい者就労支援ネットワークたけのこ
4　参加者　34名　（会場：28名　Zoom：６名）　＊後日配信希望：１名
5　「庁内実習」報告会　進　行：上田部会長　青戸副部会長
発表者：＊①向日市障がい者支援課　山田　委員
＊②向日が丘支援学校　進路部　木田　委員
＊③長岡京市障がい福祉課　石原　委員
「福祉就労から企業就労へ」　講　師：＊④乙訓ひまわり園　地域連携室　井上　大　氏
＊⑤(株)革靴をはいた猫　代表取締役　魚見　航大　氏
店長　藤井　琢裕　氏
○（株）革靴をはいた猫の魚見氏、藤井氏による　依頼のあった革靴磨きの実演

6　内容
（１）庁内実習の報告
○庁内実習の報告：＊①山田委員
（実　施）平成29年開始
（実習先）大山崎町役場、向日市役所、長岡京市役所、乙訓保健所、乙訓教育局、乙訓福祉施設事務組合
長岡京市商工会
（対象者）企業就労を希望されている方、向日が丘支援学校の学生
（実習期間）１日～５日
（庁内実習生の感想）自信になった。実習を体験することで次の実習への意欲につながった。
自分に向いている仕事を考える機会になった。仕事への苦手意識が軽減した。
（支援者からの声）実習が難しいと思える方に対して庁内実習は勧めやすい。見知った場所（市役所等）での庁内実習は普段よりも緊張が和らぐ。行政職員にも障がい者が働く姿を知ってもらう機会になった。利用者さんの得手不得手を知ることができた。事務作業の実習が少ないので貴重な経験の場である。
（実習受入先からの声）実習でお願いする業務の切り出しに苦労したが、「庁内の業務整理ができた」と感じる。業務の指示について「わかりやすく説明するにはどうしたらいいのか」を考えるきっかけになった。

○庁内実習での事例報告：＊②木田委員
（向日が丘支援学校実習計画）高等部１年１月、２年生５月、２年生１月。
（庁内実習の活用）庁内実習での達成が本人の自信となり、企業実習に繋がった。その後、乙訓障がい者就労支援ネットワークたけのこを通じて企業と出会い実習から就労へとつながった。
庁内実習は「ただ参加するだけでなく」実習の結果を支援者がどのように拾うかが大切。
庁内実習は今後も広がりや深まりが持てる取り組みである。

○庁内実習の報告まとめ：＊③石原委員

（目的）

1．障がいのある方が事務の実習機会。

2．企業就労にむかうスモールステップ、自信をつける場所、自分自身を振り返る機会。

3．保健所や市役所で実習を通して、自分たちに関係する機関を身近に感じてもらう。

（庁内実習終了者のその後）

これまで30名以上の方が庁内実習に参加され「その後企業就労および就労継続A型支援事業所：16名」「その後就労に向けた訓練を受けている方：9名」

（今後）乙訓圏域全体として「障がい者雇用の促進」を進めていくにあたり、様々な機関での障がいについての理解を深めていきたい。また、障がいのある方が「働きやすい環境づくり」に向けて協力していきたい。

（2）乙訓ひまわり園での取り組み　トリムタブカレッジ事業（龍谷大学内カフェ樹林での実践）：＊④井上さん

（カフェ樹林：就労継続B型支援事業）2006年4月にオープン。

（福祉サービスとして支援をするとは）

・健常者は高校を卒業しても大学などで学ぶ機会があるが、障がい者の進路は多くの方が福祉サービスの利用か一般就労の選択肢に限定される。

・職場で業務遂行のための技術は学ぶが「なぜ働くのか」「働くためのモチベーション」「働くために必要な要素」など心の教育が教育現場だけでなく事業所でも必要である。

（龍谷大学内でのトリムタブカレッジの実践　～学ぶということ～）

・支援者にはどこかで「この人には○○は無理かな」と思い、本人のために失敗をさせないようにしている。

・「トリムタブカレッジ」では、障がい者と学生がともに学び様々な経験や体験を共有する。

各種テーマの「座学（メソッド）」で得た「知識、道徳」を持ち実践研修に望むことで「知恵」へと変換する。イベント等の企画を学生だけでなく利用者も加わる。学んだ知識に実体験が加わり成長に繋がっている。

（最後に伝えたいこと）

チャンスの芽を摘むのも伸ばすのも支援者に左右されているのが現状。

支援者が向き合っている利用者にどうなってほしいか、どういった生活をしてほしいか、将来を思い描きながら支援をすることが支援者の仕事である。

（3）(株)革靴をはいた猫　講演：＊⑤魚見さん

（カフェ樹林での出会いと現在）

・大学時代、カフェ樹林店主の河波さんの言葉「(大事なのは）能力ではなく人格である」。また、「スキルを覚える」のではなく「自分の人生をどのように生きていきたいか」を真剣に考える場がカフェ樹林にはあった。

・2017年3月会社設立。現在、藤井さんは大阪の阪和興業株式会社に所属。依頼を受け色々な場に革靴磨きの出張をしている。革靴をはいた猫の店舗を大丸京都店5階にもOPEN。藤井さんは土曜日と日曜日は大丸京都店で勤務している。

（藤井さんへの質問：抜粋）

Q これまで大変だったことは？→「コミュニケーションをうまく取れなかったけど練習しコミュニケーションをとりました」

Q 大変なことはどうやって乗り越えた？→「樹林の中でメソッド（学ぶ）で学び、かわりました」「WINWINや色々なものを学んでからコミュニケーションをとるのを知ってからかわりました」

（トリムタブカレッジでの学生の変化）

カフェ樹林の利用者は学生が卒業して社会に出ていく姿をみている。B型事業所に行きたくないと言う人がいたり、ご家族からこのまま（就B）でいいと言われたりする。そういった姿を実際に見て、学生は「(自分自身に）ちゃんと向き合わないといけない」と考える。そういった事を通して勇気をもらった学生は多い。

(GMより龍谷大学の加藤教授の話を紹介)「人間の尊厳こそ大学で学ぶべきことではないか」「社会であたりまえに権利を阻害されたり奪われたりしている人への権利回復の責任があるということを大学で学んでほしい」「重荷を背負って生きている人そのものに人間としての価値があり、そういった事実を受け止めエンパワメントされることが重要です」。「命とはなんだろ、働くとはなんだろう」と自分につきつけてくれる存在であり、ともに成長していくことを大学生に経験させたい。

(最後に)　会社の理念「与えられる存在から与え、分かち合う存在へ」。全員が周りの人にどんどん貢献していく。
お客様にも与えることの楽しみを味わってもらう。また、「手放す貢献プロジェクト」をしており、みなさんが履かなくなった靴を寄付していただき、修理し再生させて次の方に届けていく。
藤井さんから「土日は大丸で働いているので時間があえば靴を磨くのでよろしくお願いします」

（4）まとめ：しんやさい京都　石﨑代表　「京都中小企業同友会　ソーシャルインクルージョン委員会　障害者就労委員会」

人に必要とされていることで幸せを感じる。人の成長を感じるなかで自分も成長することを感じられる講演だった。

（5）全体まとめ　グラン・ブルー　石井代表

・親が子どもの能力の限界を決めてしまっている。例えばカッターを持ったら危ないなど制限されて育ってきたので能力がどこで伸びるのかわからない。企業は福祉ではないのでなんでもさせてみるがさせない企業もある。人に「教えられない会社がどうやって発展するのですか」と企業に対して思う。障がいがあろうがなかろうが人は成長する。
・人は一人では成長できない。人が持つ「伸縮自在の袋をいかに伸ばすか」はまわりの人の役割である。

(参考)

革靴をはいた猫　阪和興業株式会社　大丸京都店　革靴をはいた猫　理念　手放す貢献プロジェクト

アンケートのまとめ（アンケート回収６名）

設問１　庁内実習の報告についての感想

・就労に向けて自信をつけるためにも庁内実習がワンクッションとなり不安が軽減され意欲が高まることに繋がることを知れた。また、実習を受け入れた側にもメリットがあることがわかった。
・今後も継続していただきたいと思います。
・庁内実習の有効性を改めて感じました。
・たけのこの会議で報告されていた方だと思って聴かせていただきました。ソフトな就労の場としてとても有効な実習だと思いました。
・企業様訪問の実習のみと思っていたので、庁内実習があることをはじめて知り、また、過去にたくさんの方が実習されており驚きました。お話しの中で、ドタキャンなどのエピソードもお聞かせいただきありがとうございました。
・庁内実習の意味や意義について知ることができ、実習の受け手側の意識や在り方の大切さに気づく事ができました。

トリムタブ・カレッジとは

設問２　乙訓ひまわり園の取組についての感想

・（乙訓ひまわり園）施設に地域連携室があり素晴らしいと思います。それぞれの地域で「トリムタブ」を数多く創出したいものです。
・障がいのある人がカフェを運営する取り組みの先駆けとしてご苦労もあったと思います。報告の中で「支援者が本人のトライを敢えて避けてしまっているのではないか」という言葉があり、日々の支援を振り返る機会になりました。
・学生との協働は教育面からもとても意味のあることだと思います。
・"支援者が利用者にどうなってほしいのか、どういった生活をしてもらいたいのかを考え、実践することが大切"だという言葉が印象的だった。いろいろ考えすぎて利用者の方の挑戦する機会をなくしてしまっていないか、考えさせられた。
・カフェでの業務内容のレジ管理、お客さま対応までされているのを見て、幅広く対応されているのに驚きました。課題のところでは、障がいの程度の違いによって対応の難しさなどが 印象に残りました。
・本当に設立当初から様々な取り組みを行って来られており、いつも言葉の重みが違うと感じます。乙訓地域の公的施設としてこの地域の為に何ができるのかなど、もっと話をお聞きしたいし、色々な話をしてみたいと思いました。

設問３　革靴をはいた猫、革靴磨きの実演も含めた感想

・「能力でなく人格」という言葉、いいですね。藤井君の背筋の伸びた姿勢に頼もしさをかんじました。ありがとうございました。
・魚見社長「藤井店長の人格に救われている」との言葉が素敵でした。変わっていく人を実際に見てきており、「与えられる存在から、与え分かち合える存在へ」成長されていくことを実際目の当たりにされて羨ましくもありました。現場に行けず、靴磨きしていただきたかったです。またお店に行きます。
・互いに尊重する姿勢を大切にされているのがステキです。くつも心もピカピカにされるお仕事ぶりに感動しました。
・当事者の方の声が聞けたことが一番よかった。"やりたい"という意欲が力になり、本人だけでなく、周りも変えていくきっかけになると感じた。
・藤井店長さまの生の声が聞けて大変良かったと思います。仕事のやりがいなどお話していただきありがとうございました。心に刺さった言葉が「僕は障害者じゃない」でした。　　魚見社長さま、藤井店長さまお疲れ様でした。
・言うのは簡単。実行し、継続し続ける事が難しい。それを成し遂げ、繋いでおられる事に感動しました。私にも何かできることないかとワクワクできるお話が聞けて嬉しかったです。

設問４　庁内実習へのご意見、福祉就労、企業就労へのご意見やご提案がありましたらご記入ください

・地域連携の具体的事例を沢山創出していきましょう！！
・まだ担当の方が庁内実習へつながっていないので、今後自信を持つきっかけに継続して案内していきたいのですが、事業所を休んで、工賃がその日出ないことに躊躇する人が多い感じがしています。
・高等部３年間を終えて就労に、というのは、なかなか難しいと感じる。働く人の実際を知る機会があることで、講演の中でも話されていた、"なぜ働くか、どんな人生を送っていきたいか"を少しでも具体的にイメージすることができるのでは、と思う。もっとこのような場があればと思う。
・当社の業務は、主にガス機器の修理、点検、施工、販売業務で、お客さま宅を訪問しております。会社見学、ご協力出来ることがあればお気軽にお声掛けいただければと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。
（野間ガスサービス㈱　長岡事業所さんより）
・庁内実習が実習生にとってどのような意味や意義があるのか、就労が人生にとっていかに有意義であるかの発信を積極的にして頂く事で知れること、分かることが多いと思いました。